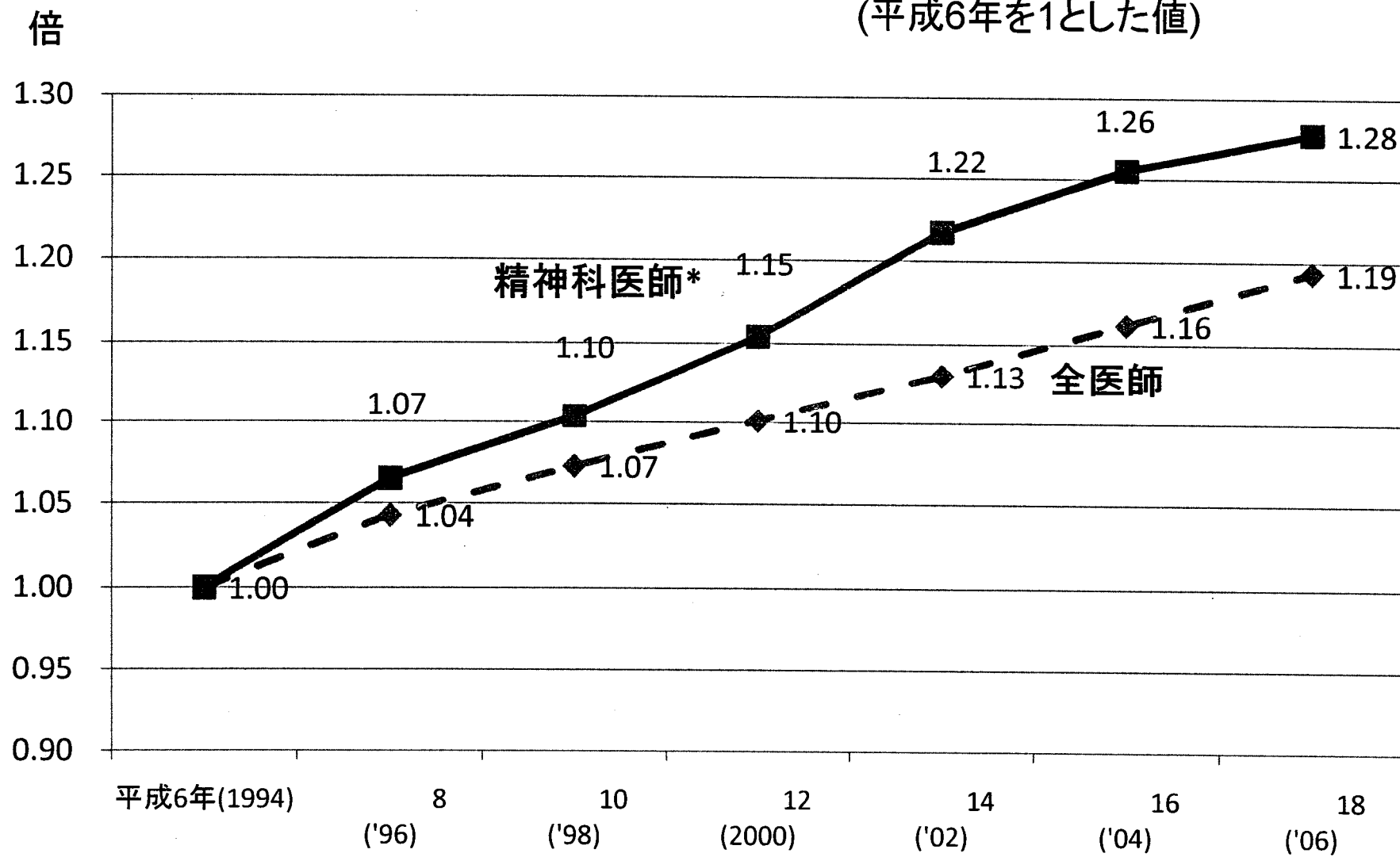


3. 精神科医療機関における 従事者の確保について

医師数の変化

(平成6年を1とした値)

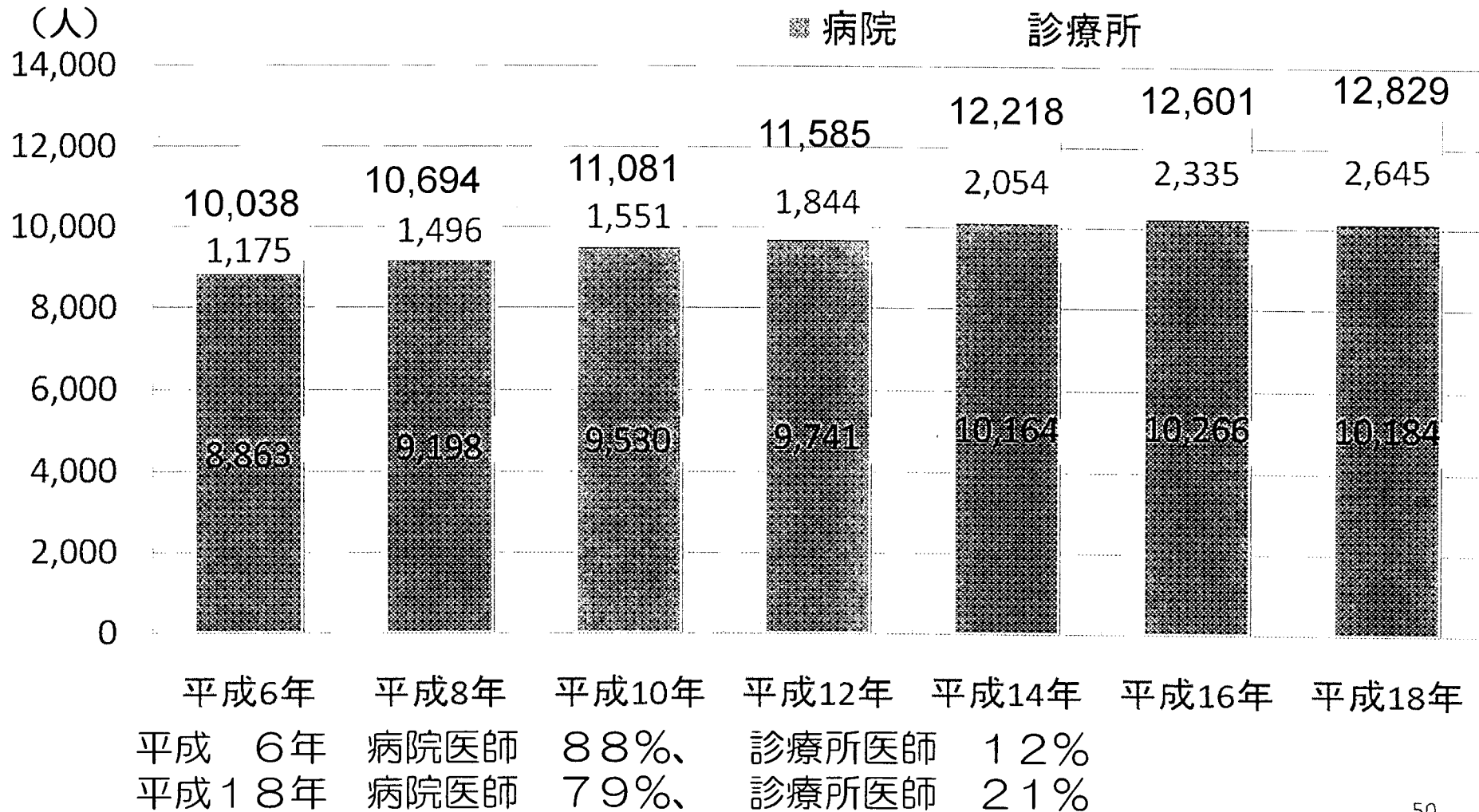


*精神科医師: 精神科及び神経科の医師を含む

(医師・歯科医師・薬剤師調査)

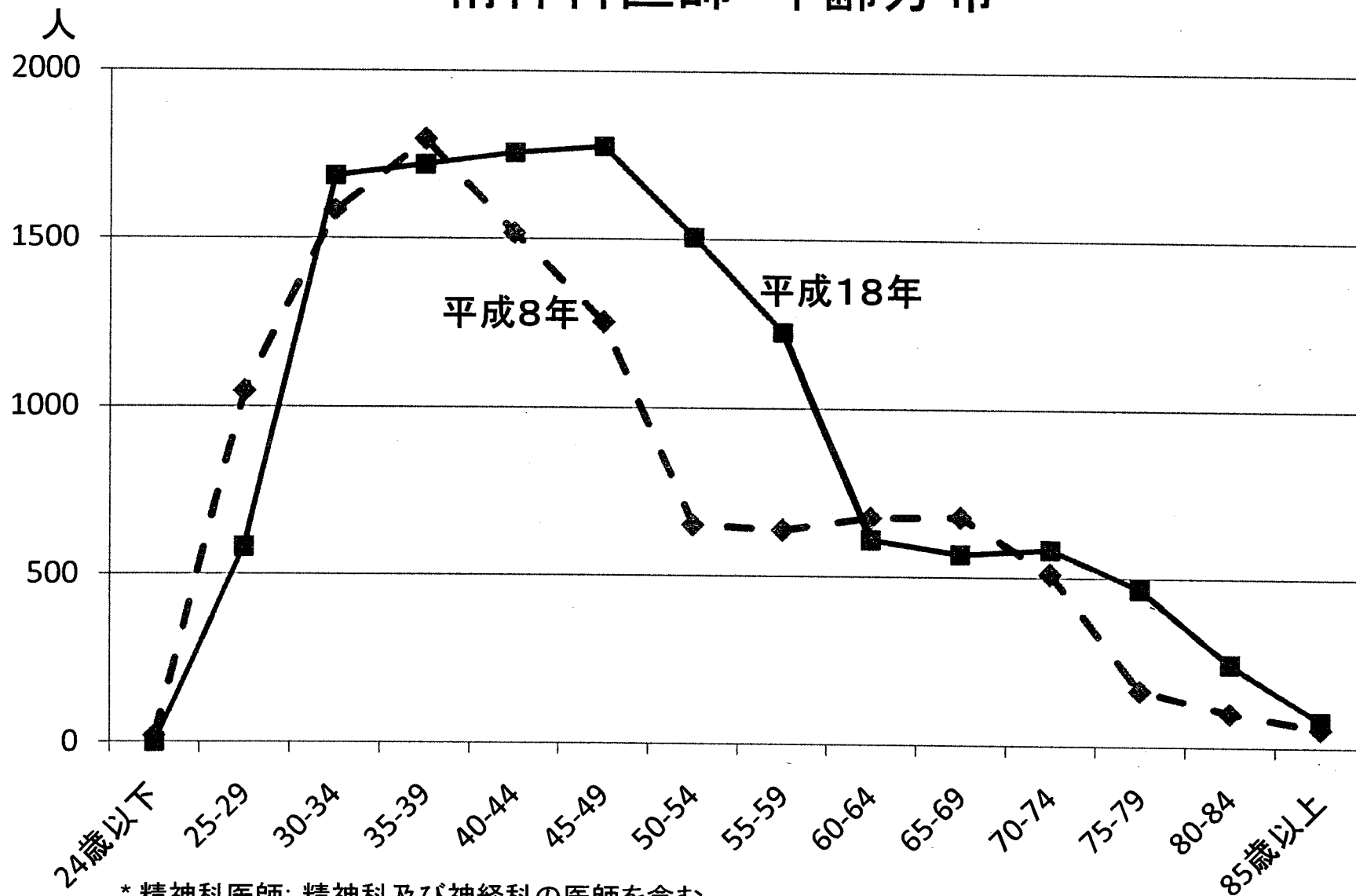
精神科医師*の所在（病院と診療所）

診療所に勤務する精神科医師が増加している。
 （平成6年→平成18年では、診療所では125%増加、病院では15%増加）



* 精神科: 精神科及び神経科の医師を含む

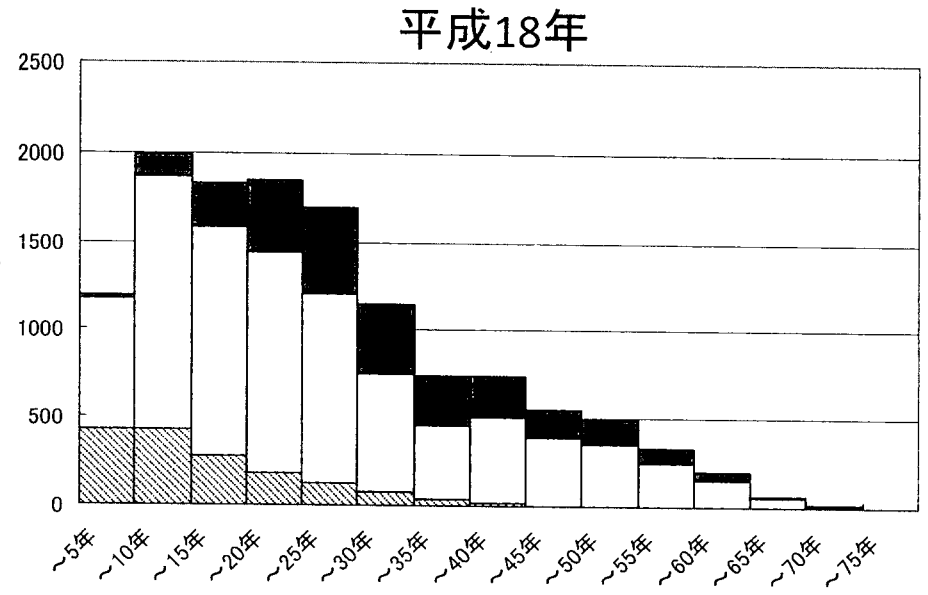
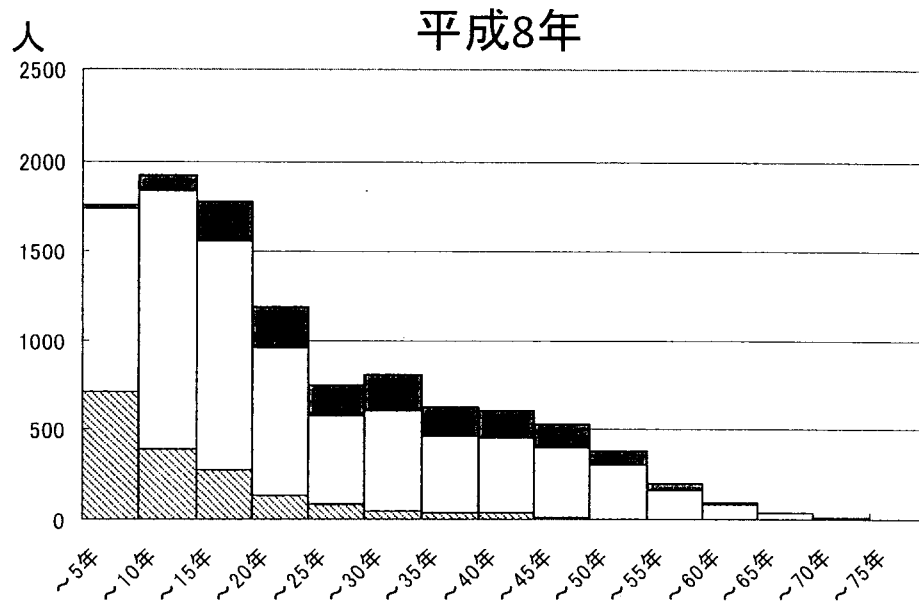
精神科医師*年齢分布



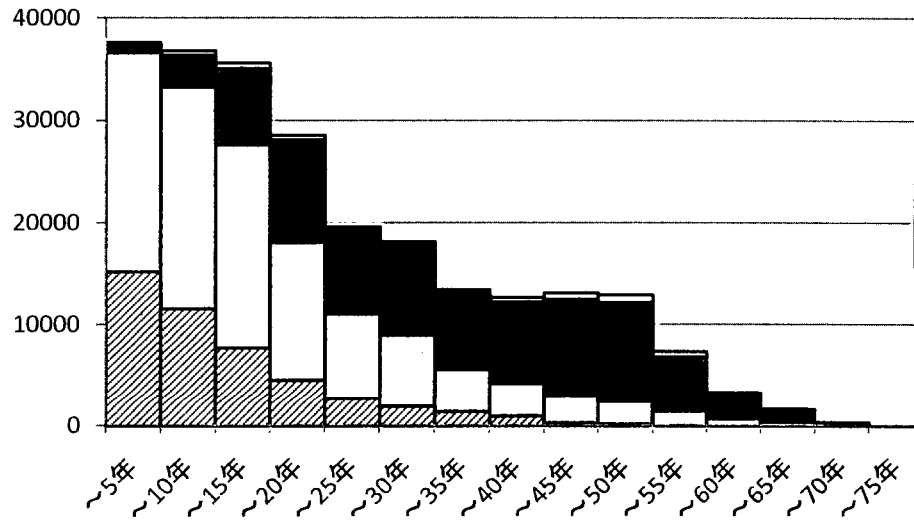
* 精神科医師: 精神科及び神経科の医師を含む

精神科医師*の業務種別(医師免許取得からの年数別)

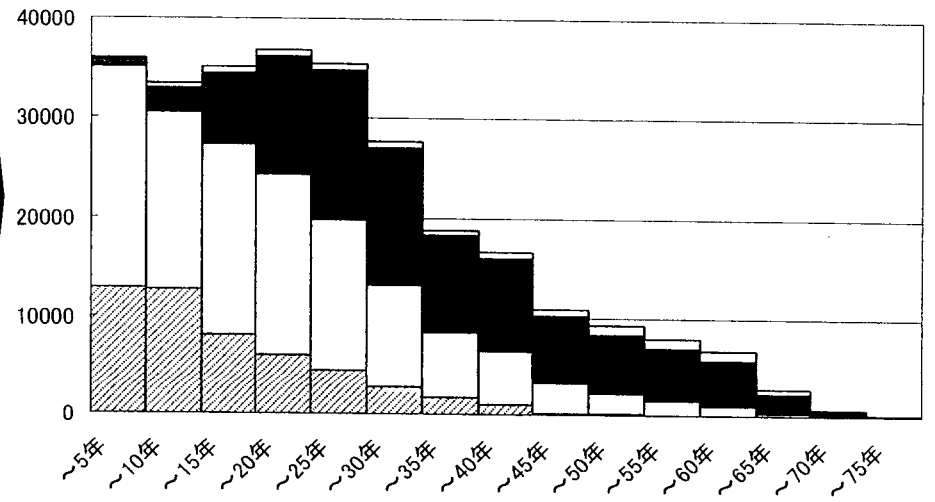
* 精神科医師: 精神科及び神経科の医師を含む



(参考・全医師の業務種別)

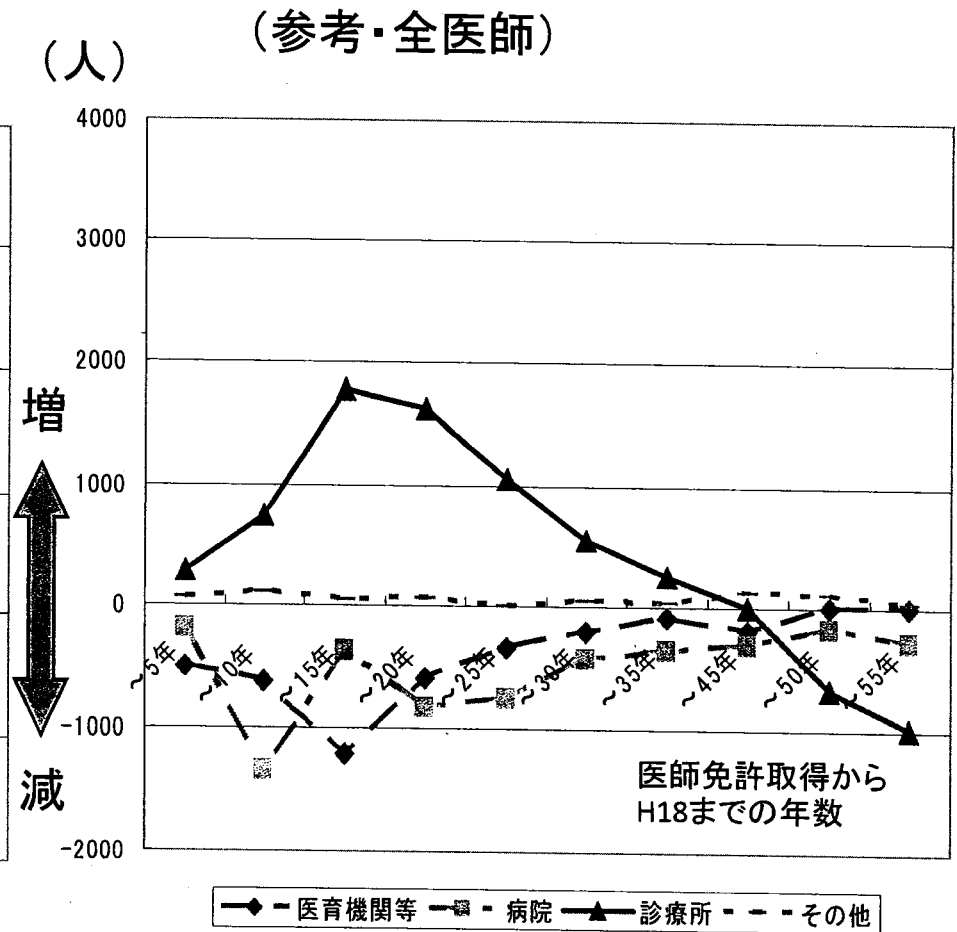
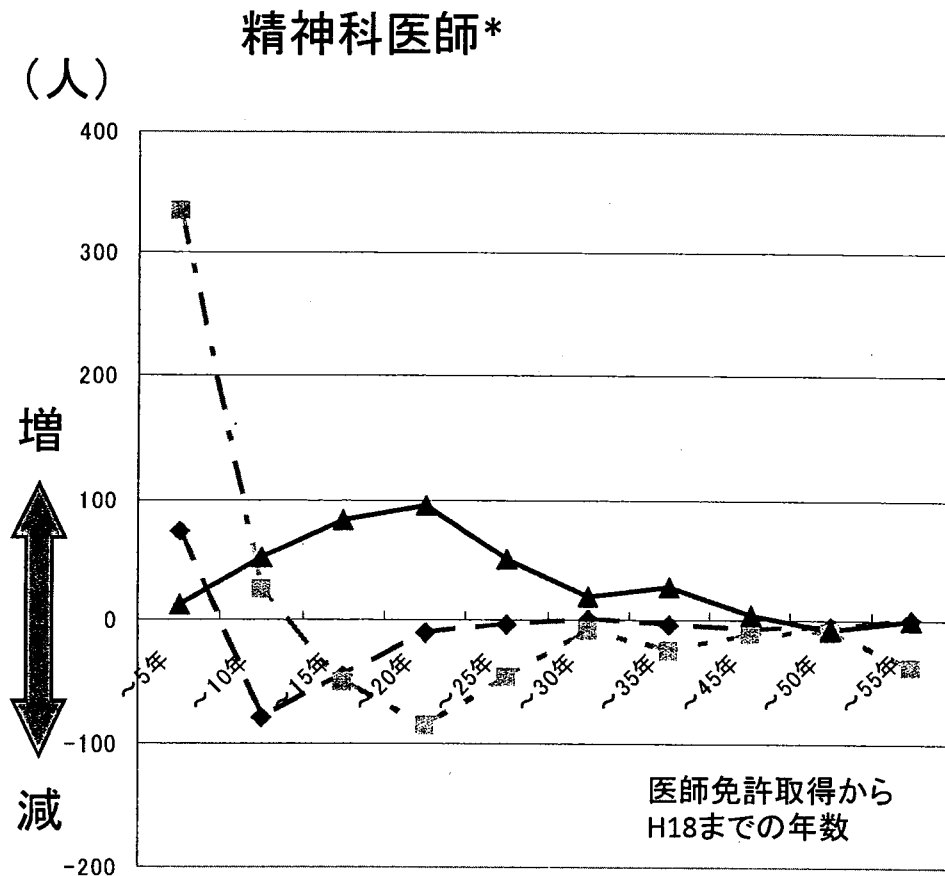


(医師・歯科医師・薬剤師調査)



■ 医育機関等 □ 病院 ■ 診療所 □ その他

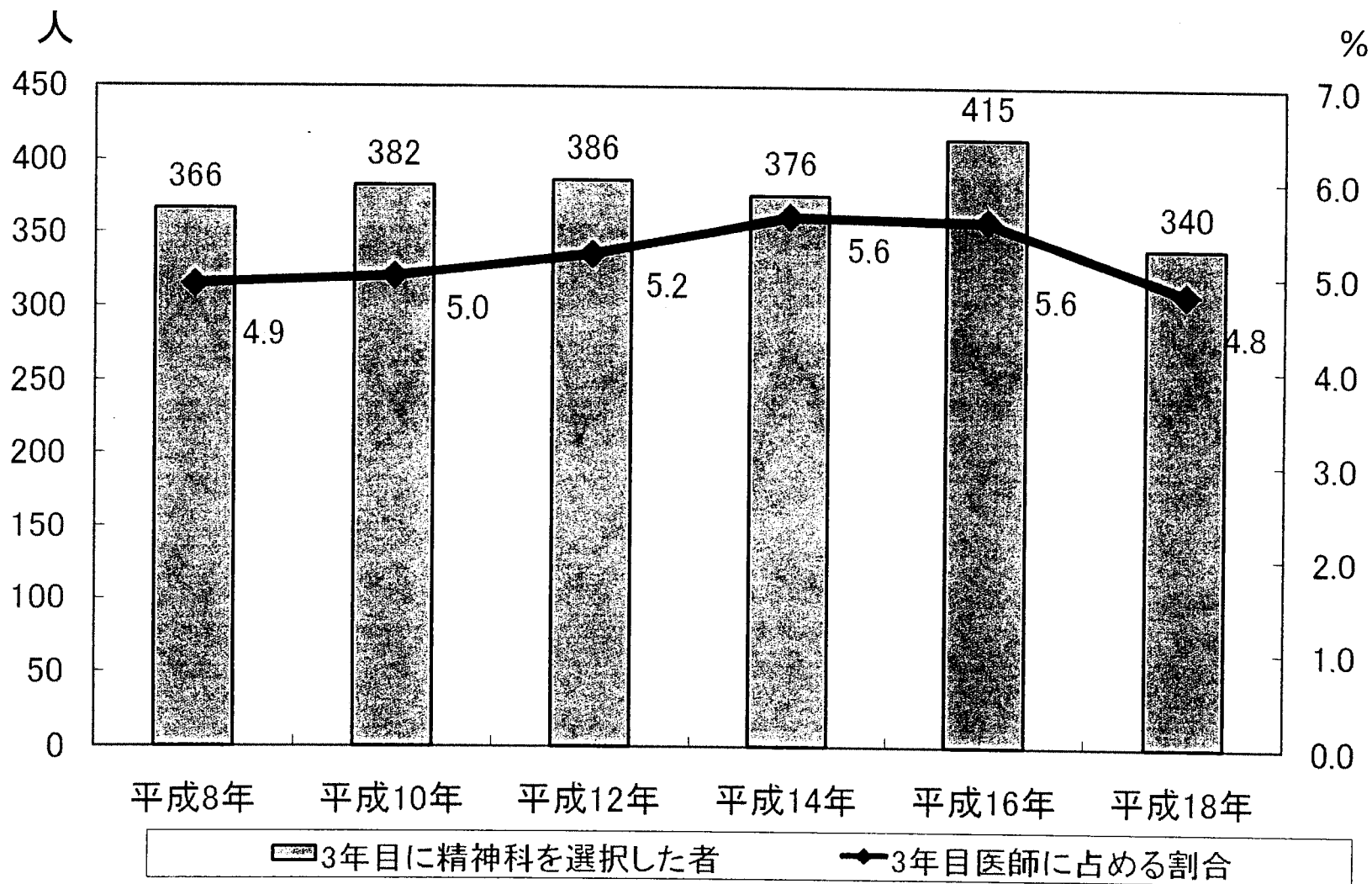
各世代の医師の、業務種別ごとの従事者数の変化 (H18の従事者数を、2年前と比較したもの)



* 精神科医師: 精神科及び神経科の医師を含む

(医師・歯科医師・薬剤師調査)

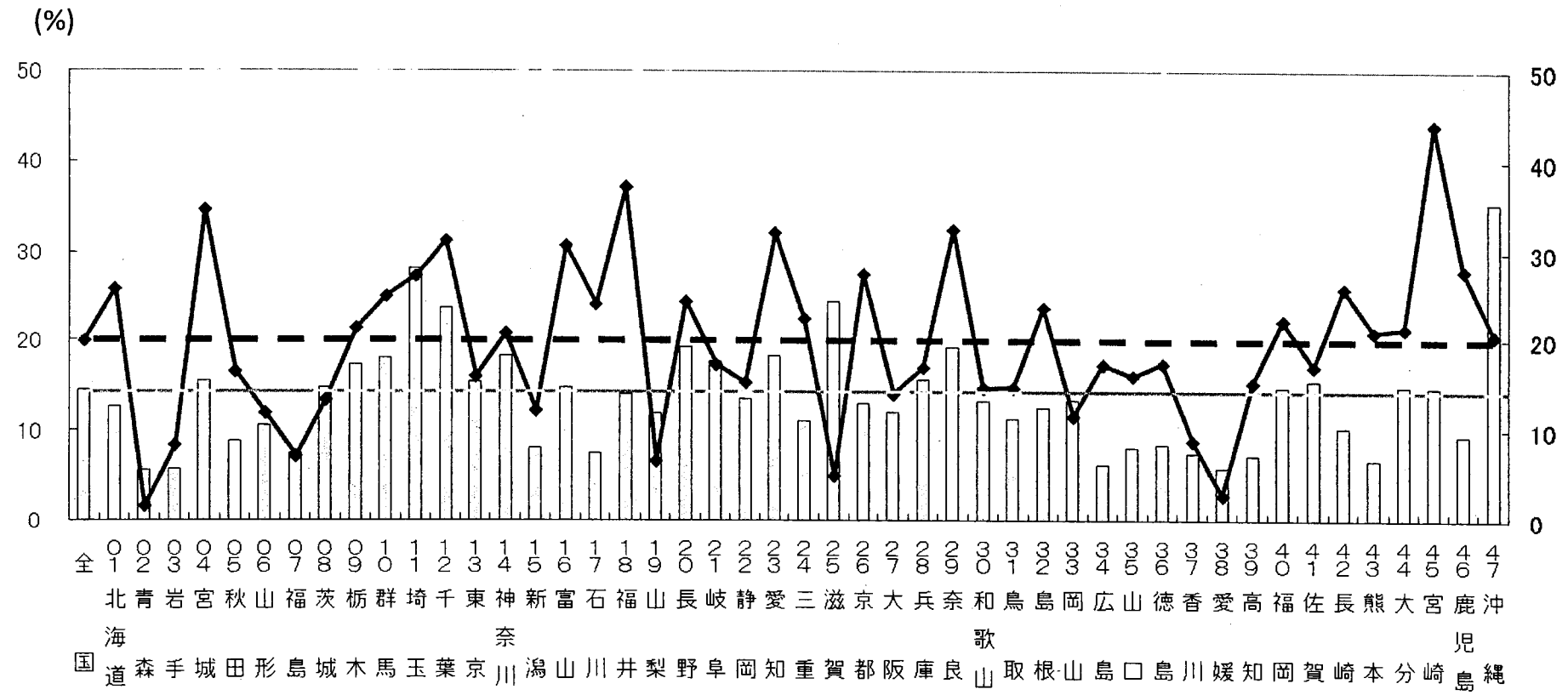
医師免許取得後3年目の精神科医師*数



* 精神科医師: 精神科及び神経科の医師を含む

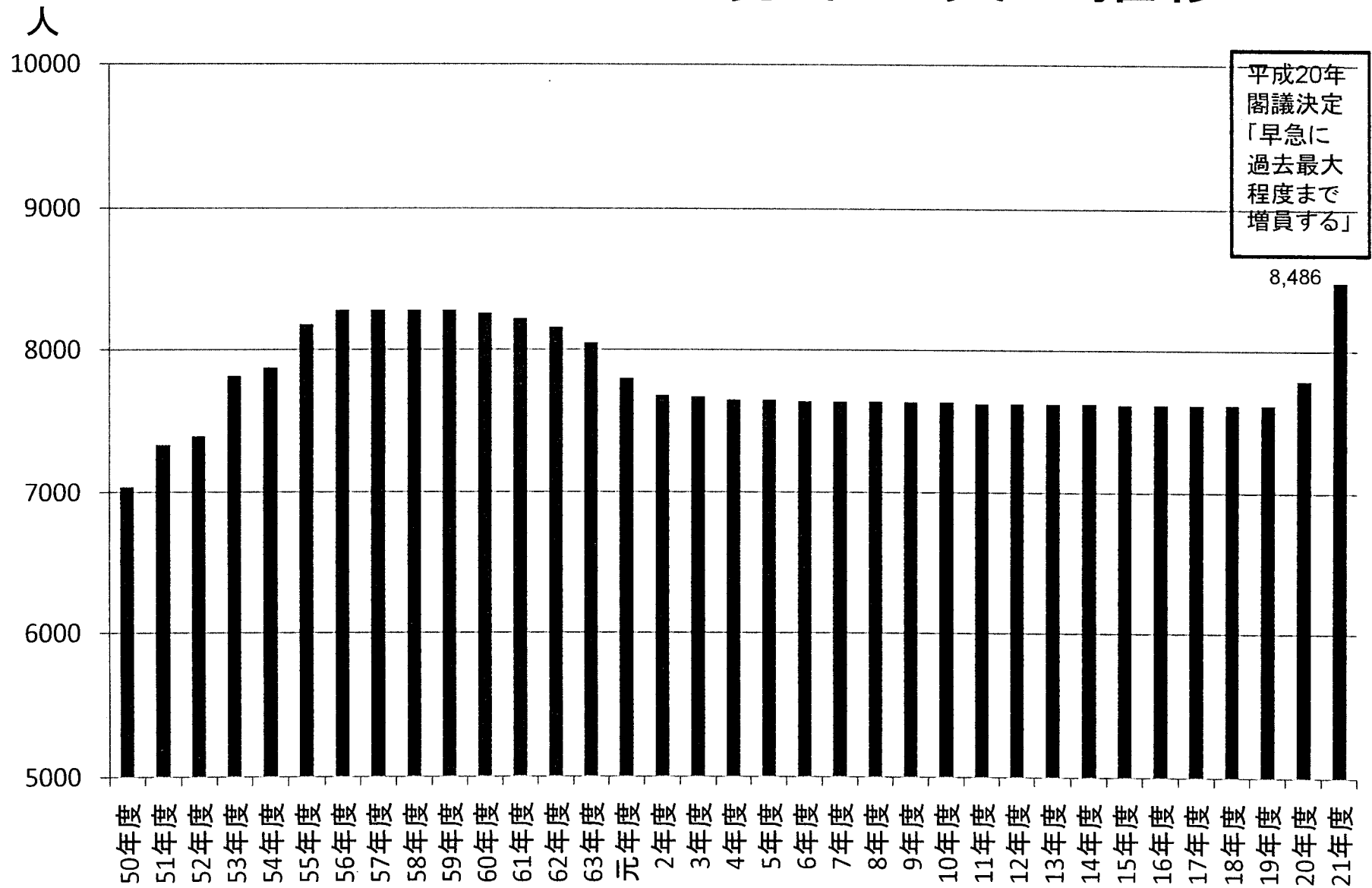
(医師・歯科医師・薬剤師調査)

都道府県別の医師・精神科医師*の増加率 (平成8年と平成18年との比較)

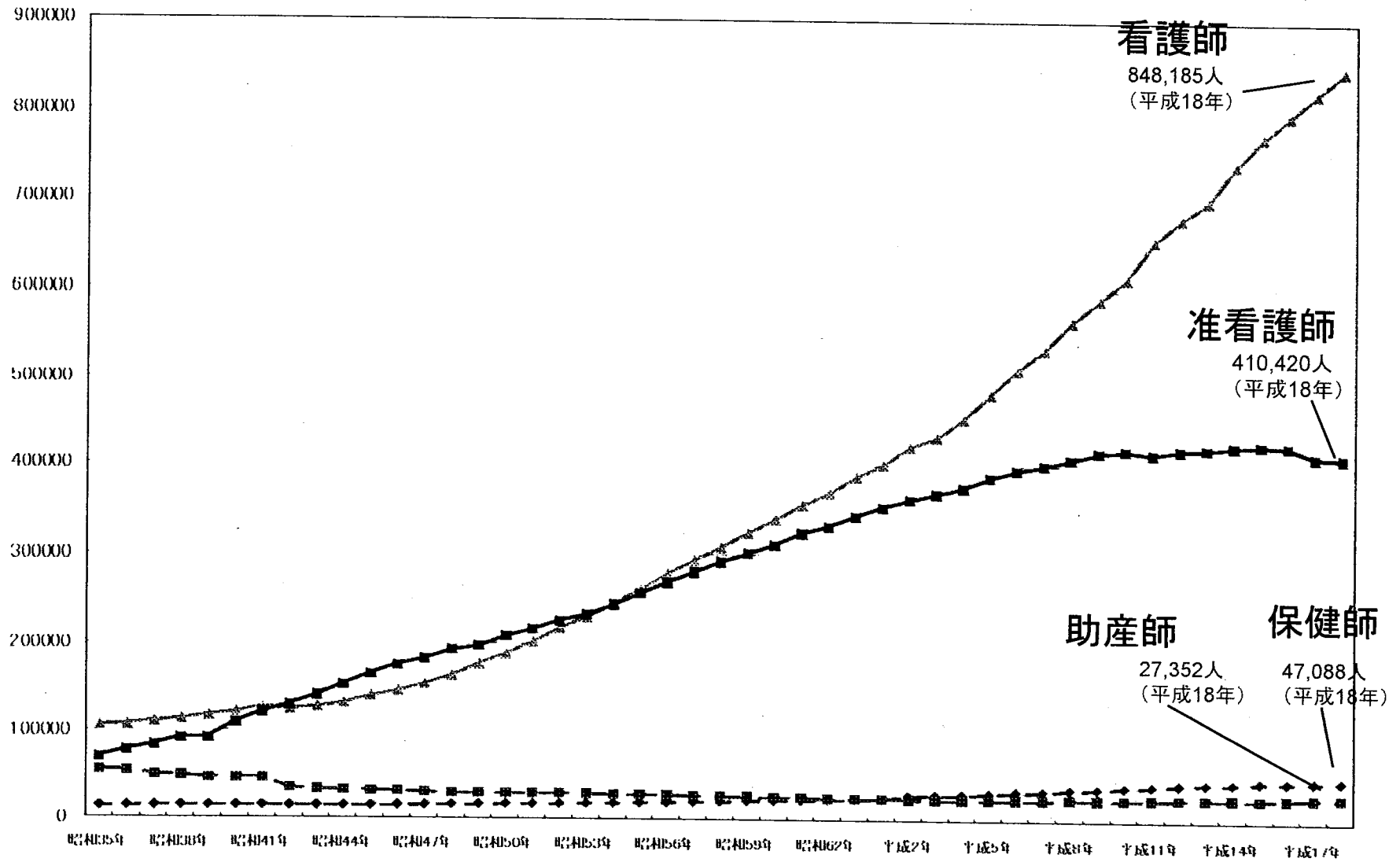


* 精神科医師: 精神科と神経科の医師を含む

医学部医学科入学募集人員の推移

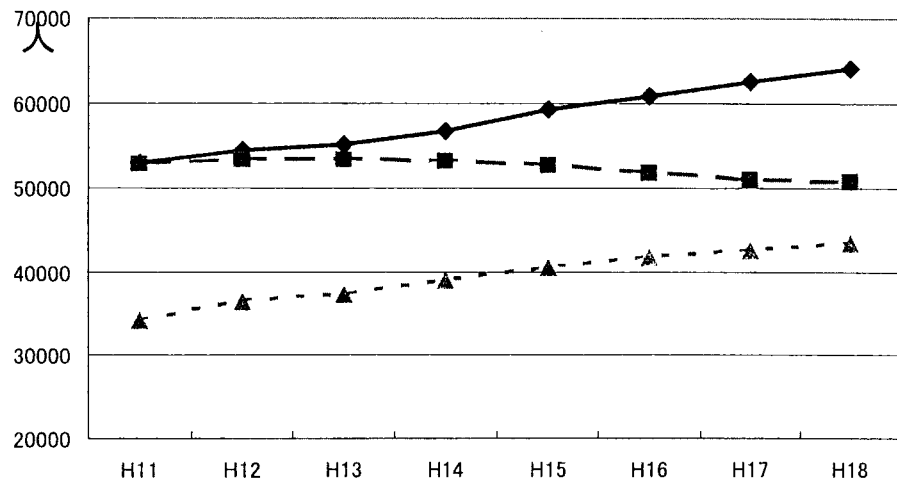


看護職員就業者数の推移

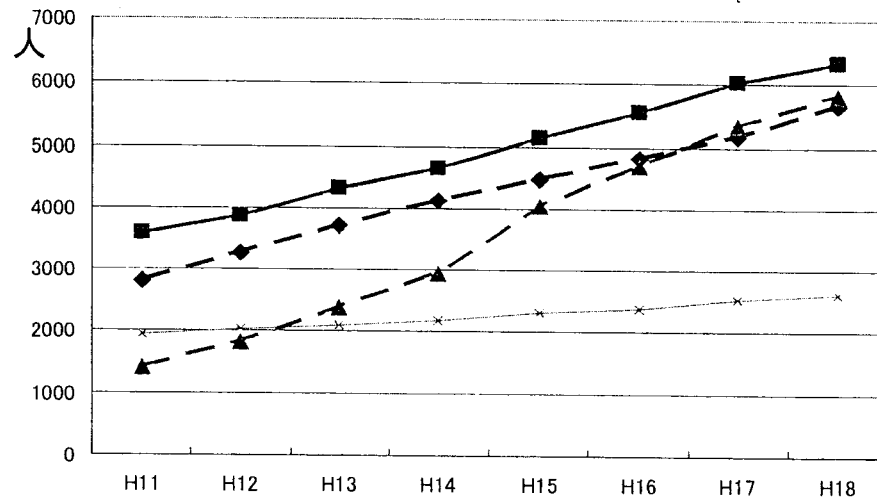


精神科に従事する医療従事者数の推移

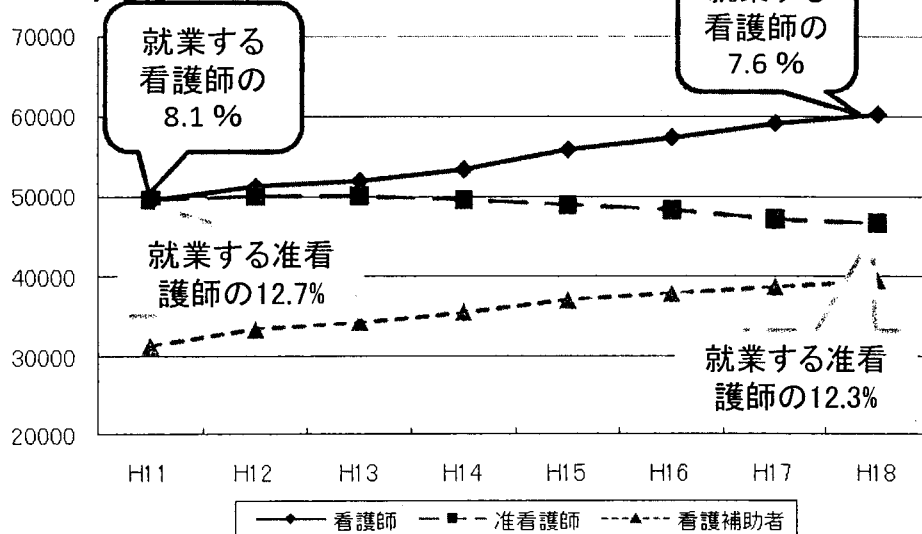
常勤＋非常勤(実数)



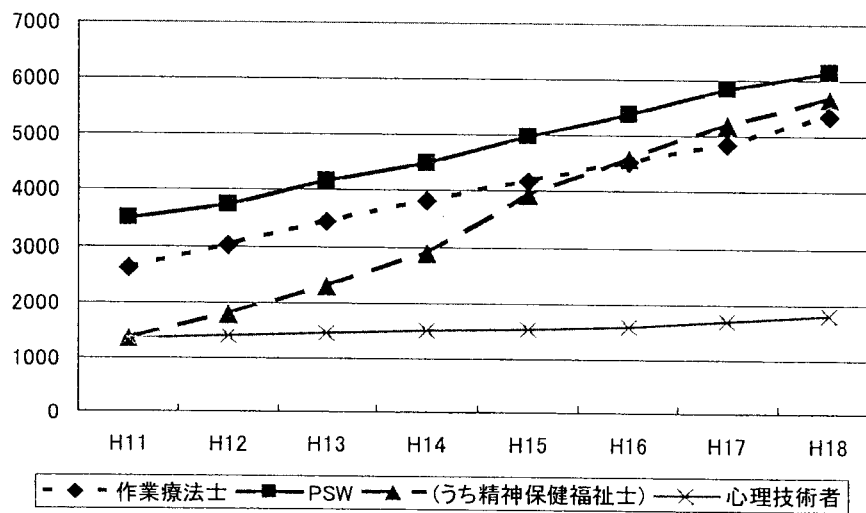
常勤＋非常勤(実数)



常勤のみ



常勤のみ



平成21年度看護職員確保対策予算の主な事業

離職の防止

○新人看護師に対する医療安全推進モデル研修事業 1.7億円
医療安全の確保及び離職の防止を図るために、看護師として必要な知識及び技術等についての臨床実践能力を修得させるための研修事業等を実施

○新人助産師に対する医療安全推進モデル研修事業 1.0億円
医療安全の確保及び離職の防止を図るために、助産師として必要な知識及び技術等についての臨床実践能力を修得させるための研修事業等を実施

○病院内保育所運営事業 19.9億円
医療従事者の離職の防止を図るために、子供を持つ看護職員等が安心して勤務を継続できるよう、医療機関が設置する病院内保育施設の運営に対する補助事業

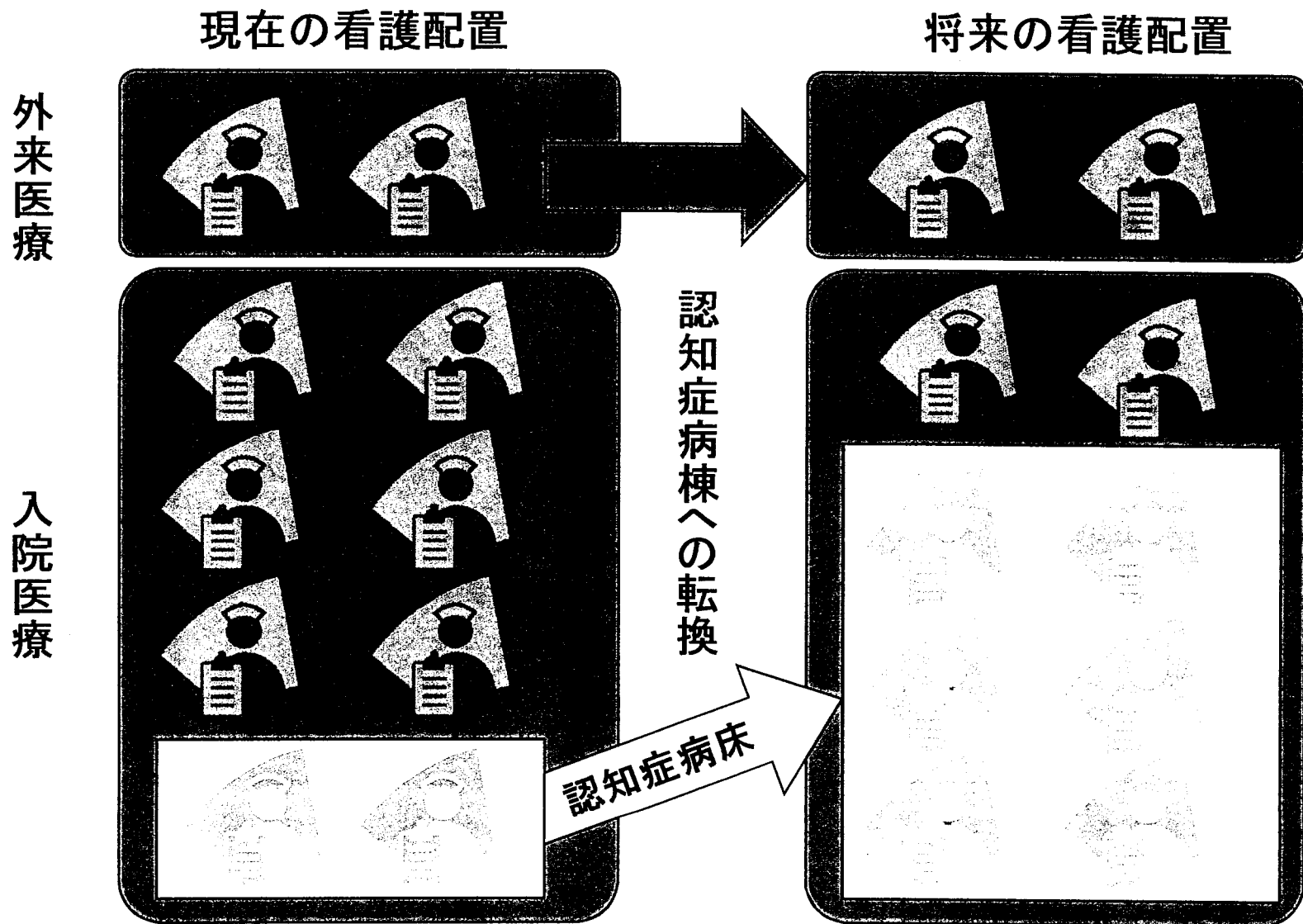
再就業の支援

○看護職員確保モデル事業 0.8億円
潜在看護職員の再就業の促進を図るために、教育研修が充実している病院において臨床実務研修事業等を実施

○助産師確保総合対策事業 1.2億円
潜在助産師等の産科診療所への就業の促進を図るために、産科の専門的病院において助産に関する知識や技術等についての臨床実務研修事業等を実施

○中央ナースセンター事業 1.4億円
未就業看護職員の就業促進を図るために、求人・求職状況の提供や無料職業紹介などを行うナースバンク事業等に対する補助事業

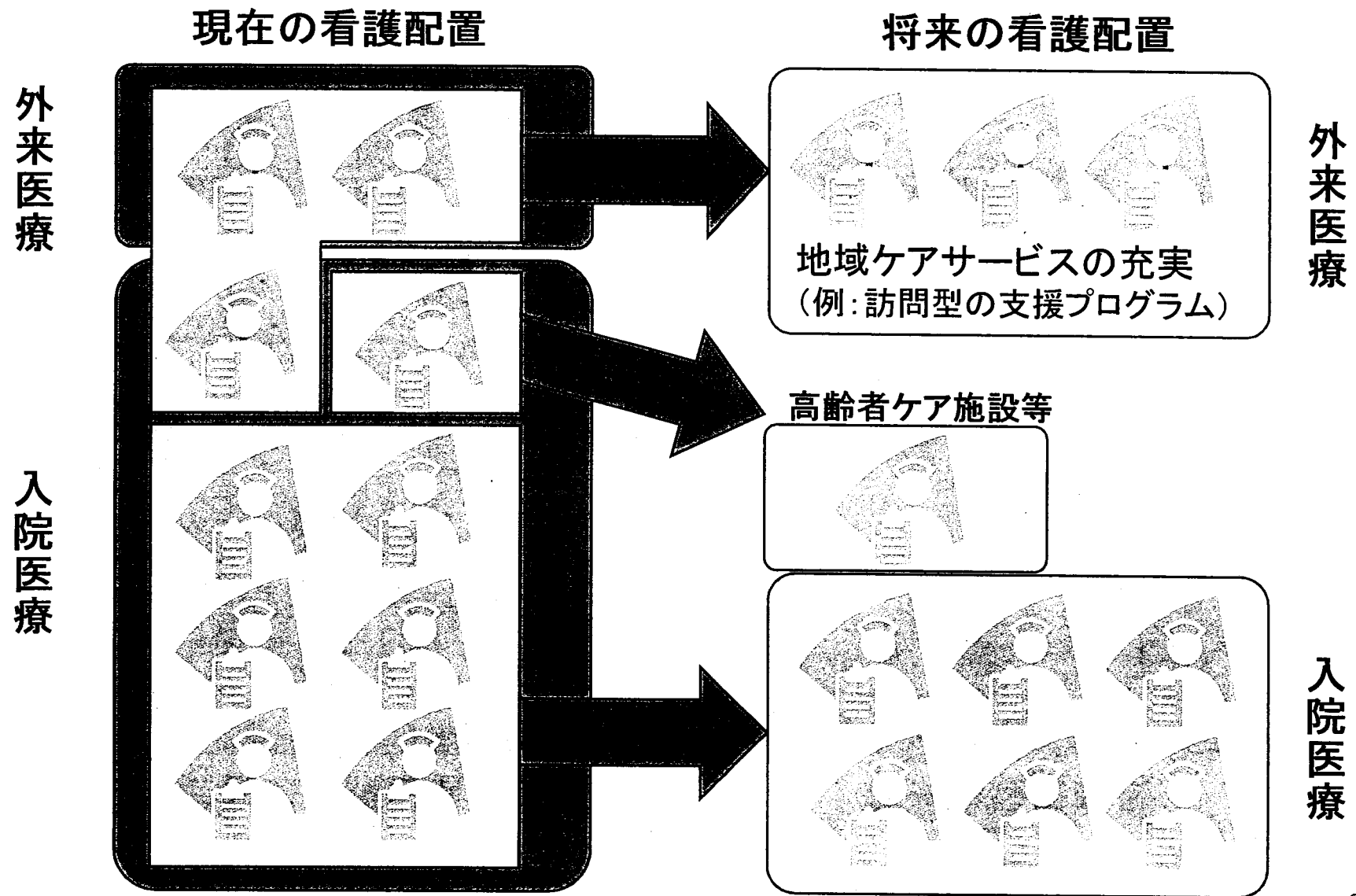
従前のモデルによる精神科病院の人員の再配置



伊藤弘人構成員 提供資料

*注:看護配置を基準に作成したイメージで他職種も専門性に着目して類似の配置転換が行われる。⁶⁰

将来あるべき精神科病院の人員配置(イメージ)*



*注: 看護配置を基準に作成したイメージで他職種も専門性に着目して類似の配置転換が必要である。

精神科医療機関における従事者の確保について

現状と課題

- 精神科(神経科を含む)に従事する医師数は、他科の医師と比較して、高い割合で増加してきている。
- 病院に勤務する医師の増加のペースが鈍い一方、精神科診療所に勤務する医師は急速に増加しており、他科と同様、免許取得から10~20年程度で、病院等から診療所への勤務に移行する医師が多くなっている。
- 精神科に従事する看護職員等のコメディカル数は、徐々に増加している。しかし、全科の看護職員の総数と比較すると、精神科に従事する看護職員の増加のペースは鈍い傾向にある。
- 医学部の定員増等、医療従事者の養成や確保の取り組みが進められているが、全体として従事者数は有限であり、養成数の増加が実際の従事者数の増加に効果を及ぼすには長い時間を要する。

検討

- 国民のニーズ及び若手医師のキャリア形成の双方に資するよう、学会・医療機関等が連携して、若手の医療従事者の養成の充実を図ることにより、精神医療への魅力を高め、精神科の従事者の確保を図ることが求められる。
- 精神病床の医療の質の向上を図るために、段階的に看護職員等の人員基準の充実を目指すべきではないか。(「入院医療における病床等の機能」の論点を参照)
- その上で、医療従事者数が有限であることを踏まえ、精神医療の中でも、最も必要な分野に重点的に医療従事者を確保する必要があるのではないか。
- 具体的には、在宅医療、救急・急性期医療、精神・身体合併症に対する医療、各領域の専門医療等、今後需要の見込まれる分野に勤務する医療従事者が相対的に増加し、長期入院患者の病棟等に勤務する医療従事者が相対的に減少するよう、施策を講じるべきではないか。その際、新たな分野に従事する者への研修等についても考慮すべきではないか。
- 確保の難しい医師・看護師の業務を軽減する観点も踏まえ、他の職種に従事者の資質の向上や更なる活用について、どう考えるか。